

ロータリー年表

作成：国際ロータリー第2510地区職業奉仕委員長 玉井清治

西暦	事柄	主な創立クラブ	和暦
1905	2月23日、シカゴ・ロータリークラブ創立。	シカゴRC	明治38
	シカゴRC会長(シルベスター・シール) ハイラム・ショーレー退会。		
1906	シカゴRC会長(アルバート・ホワイト)		明治39
	シカゴRC定款制定及び改定。ドナルド・カーター事件。(奉仕概念の誕生)		
1907	公衆便所設置運動開始。(シカゴRC) シカゴRC会長(ポール・ハリス)		明治40
1908	シェルドン、チェスレーベリー入会(職業奉仕の概念を提唱)。シェルドンが職業分類表作成。	サンフランシスコRC	明治41
	シカゴRCが最初の家族会を開催。 シカゴRC会員が200名を超える。(5月現在)	オークランドRC	
1909	シカゴ市役所と公立図書館の横に二つの公衆便所が設置完了。	シアトルRC	明治42
	ポール・ハリス二期目の会長を任期半ばで辞任。シェルドンも拡大委員長を解任させられる。 シカゴRC会長(ハリイ・ラグルズ)	ロサンゼルスRC ニューヨークRC	
1910	全米ロータリークラブ連合会(NARC)結成、第1回全国大会。(シカゴ大会)16RC約1500名 同大会においてシェルドンが「He profits most who serves his fellows best」を発表。 ロータリーの綱領制定。	ウィニペグRC(カナダ)	明治43
	ポールハリス、ジーン・トムソンと結婚。 ポールハリス、全米ロータリークラブ連合会会長就任。チェスレーベリー初代事務総長就任。 カナダでウィニペグRC誕生。(米国以外で初、翌年度加盟) シカゴRC会長(A・M・ラムジー)		
1911	ロータリー宣言の結語として「He profits most who serves best」を採用。 機関誌ナショナル・ロータリアン誌発刊。		明治44
	ポートランドで第2回年次大会開催。シェルドンが「私の宣言」を発表。 ポートランド年次大会で、ベンジャミン・フランク・コリンズが「service not self」を発表。 「Rotary Club Manual」発行。(手続要覧の原型) 英国にロンドン他のRC設立が本格的に開始する。		
1912	国際ロータリークラブ連合会(IARC The International Association Rotary Clubs)に改称。 ロータリー・マーク制定。機関誌名をザ・ロータリアン誌に改称。 ロータリーの綱領改定。(連合会の綱領とクラブの綱領が分離)親睦と相互扶助が一掃される。 地区制制定。		大正元年
	クラブ綱領にserviceという語が初めて出る。 ポールハリス、連合会会長辞任・終身名誉会長就任。 ポールハリス、シカゴ郊外モーガン・パークに新居新築。カムリーバンクと名付けて来訪者を歓迎。		
1913	バッファロー年次大会でシェルドンが「事業を成功させる哲学と職業倫理」を発表。(黄金律) 米国中西部諸州が大洪水に襲われたとき、当時存在していた50のRCが合計25,000ドルの 義捐金を被災者に贈る。(ロータリアンが災害被災者に援助を要請されたのはこれが最初) 身体障害児対策開始。(シラキューズRC)		大正2
	ロータリー年度の表現開始。(7月~6月末決定・本格的実施は1917年) ロータリー旗制定。		
1914	IM 始まる。(サンフランシスコRCとオークランドRC) イギリスがBARC(後のRIBI)結成。難民救援活動。(イギリス・アイルランド)		大正3
	サンフランシスコ大会にて「ロータリー道徳律(倫理訓)」採択。 ロータリーの綱領改定。 標準定款・模範細則採用。 District制度及びガバナー制度制定。		
1915	アディショナル正会員制度設定。 身体障害児対策を開始。(トレドRC) 大会報告書の中に初めて“Ideal of service”の語が出現(グレン・ミード言)。 日本人初のロータリアン福島喜三がアディショナル正会員としてダラスRCに入会する。 キワニス・クラブ(国際キワニス)結成。		大正4
	ガイ・ガンディーカーによりA Talking Knowledge of Rotary (ロータリー通解)が出版される。		
1916	青少年活動委員会設立。 出席率競争開始。 ポールハリス、法律事務所をファースト・ナショナル銀行ビルに移転して事業拡大。		大正5
	アーチ・クラフ基金創設。(6月18日) 身体障害児協会設立。(トレドRC) レズリー・ビジョン(カナダ・ウィニペグ RC)が米国外から初めて連合会会長になる。 名誉会員制度制定。		
1917	RI大会の年度末開催が本格的に開始。(調整のためこの年度はシンシナティ、アトランタと2度大会開催) ライオンズクラブ国際協会発足。(6月7日アメリカ・イリノイ州・オークブルック 設立者:メルビン・ジョーンズ)		大正6
	戦争避難民救済資金募集。(アメリカの各クラブ)		
1918	連合会綱領に「ideal of service」という語が初めて出る。 ガスターバス・ローア逝去。(5月23日 享年53歳)		大正7
	地区ガバナー国際会議開催。(後の国際協議会) フィリピンのマニラRCがアジアで初のRCとして設立。 エリリアRCのエドガー・アレンが国際身体障害児協会を開始。 シカゴの企業家6名が中心になって犯罪防止取締小委員会を設立。「秘密六人委員会」マフィアとの対立。 ジョン・プール会長が“Service Above Self”を使って演説。(Not Selfの衰退へ) ポール・ハリス母逝去。		
1919	10月20日、東京RC創立。(日本初のロータリークラブ)	東京RC	大正8

第一次世界大戦

1920	最初の手続要覧の中に He Profits...がスローガンの後半部分として採用。	マドリッドRC	大正9
	ニューヨークRCにて少年週間開始。(初の青少年のための活動)		
	奨学金制度開始。(アトランタRC)		
	ロータリー徽章採用。(くさび穴無し)		
1921	欧州大陸における最初のクラブ「マドリッドRC」がスペインに誕生。	大正10	
	フランク・コリンズ逝去。		
	手続要覧にて He Profits Most Who Serves Best がモットーへ名称変更。		
	3月、福島喜三次大阪へ転勤。(東京RC例会へは僅か2回出席するのみ)		
1922	アメリカ以外で最初の国際大会がスコットランド・エジンバラで開催。(世界で1000クラブ達成)	大正11	
	エジンバラ大会でシェルドンが「ロータリー哲学」を発表。(黄金律を尊重しながら語る)		
	綱領に国際親善と平和の項目を加えることを決定。(国際奉仕の綱領化)		
	東京RC共同特別代表世話役W. L. ジョンストン(名誉会員)米国へ帰国。		
1923	ソロブチミスト創立。	大正12	
	国際ロータリー(RI)に改称。(ロサンゼルス大会 1,243RC 約81,000人)		
	新しい標準 RI 定款・細則及びクラブ定款・細則を採択。		
	ロータリーの綱領改正。(現在の原型、6カ条)。		
1924	メークアップ制度を含む出席規定制定。(クラブ管理の抜本的改正)	大正13	
	R.I.B.I.地域運営が認められる。		
	セントルイス大会で決議「23-34」が採択される。(ロータリー理念、原則の確立)		
	2月10日、大阪RC創立。		
1925	ロータリー記章制定。	大正14	
	関東大震災。見舞金がRIより送られる。(RI: \$25,000、合計\$89,000)		
	震災孤児支援募金実施。(東京RC: ニコニコ箱の原型)		
	シカゴRC会長(チャールズ・A・ニュートン)		
1926	ロータリー徽章の正式規格(くさび穴付き)RI理事会採択。(現在のロータリー徽章を採択)	昭和元年	
	無地区時代の日本にスペシャル・コミッショナーとして米山梅吉が就任。(1924~26)		
	10月23日、日本初の夫人同伴例会開催。(東京RC)		
	ポビー・フランス殺人事件。シカゴRCアルマー・コウ(眼鏡商)の功績により事件解決。(シカゴRC犯罪調査委員会)		
1927	第1回太平洋地域大会(ホノルル)。Business Method Committee廃止。	昭和2	
	日本初のRI理事に米山梅吉就任。(1926~27)		
	日本第1回都市連合会が5月に大阪で開催される。		
	ポール・ハリス父逝去。		
1928	ベルギーのオステンド大会で四大奉仕部門(うち国際奉仕は翌年)を承認。(四大奉仕への転換)	昭和3	
	道徳律頒布中止。		
	最初の青少年交換。		
	RI承認。		
1929	RI理事会は、道徳律よりもロータリーの綱領に重点を置くことに意見が一致。	昭和4	
	第2回太平洋地域大会が10月東京で開催される。		
	日本が満州、朝鮮を含む第70区に制定される。(初代ガバナーに米山梅吉就任)		
	ロータリー財団法人設立。(国際ロータリーから独立した別機関となる)		
1930	ピビアン・カーター著「The Meaning of Rotary(ロータリー解析)」出版。	昭和5	
	大連クラブの古沢文作が「大連宣言」を発表。(綱領と道徳律の真髓を格調高い日本語で適格に表現)		
	ポール・ハリス著「The Founder of Rotary(ロータリーの創設者)」をRIが出版。		
	ダラス大会にてRIBIからHe profits...を廃止するという決議案29-7が提案される。(否決)		
1931	第1回RI第70区年次大会が4月京都にて開催される。	昭和6	
	ロータリー徽章確定。(くさび穴付き)		
	「ロータリー旗」規格確定。		
	ポールハリス、病氣療養。(1931年まで)		
1932	シェルドンの息子アーサー・サJr.が死去(享年30歳)	昭和7	
	ロータリー創立25周年。		
	パスト・サービス会員制度設定。		
	青少年交換指針発表。		
1933	シカゴRCを退会。	昭和8	
	4月、ガイカンディカー来日。		
	5月10日、神戸大会に第5代RI会長マルホランドが来日。		
	5月、日本で初のガバナー月信発行。(井坂孝ガバナー)		
1934	日本スマイル箱の原型(ただし罰金徴収式)が大阪RCで発足。	昭和9	
	道徳律の頒布禁止。RI理事会は手続要覧には掲載する方針は続けるが、特にこれを頒布したり一般に宣伝することはしないことを決定。		
	RI公式資料「目標設定プラン」の中で「ideal of Service」を説明。(初出)		
	日本第1回地区協議会開催。(井坂孝ガバナー)		
1935	ロータリー財団信託宣言。	昭和9	
	浄財拋出型スマイル箱の開始。(東京RC)		
	アルカボネ脱税容疑で摘発。民衆からロータリーに対し拍手喝采。		
	ハーバート・テイラー、四つのテストを発表。		
1936	レギナルド・ハリスがロータリーを退会。ライオンズに入会する出来事が発生する。	昭和9	
	史上最初の会員数減少。		
	国際大会で初めての規定審議会が開催される。		
	一都市一RC制廃止。		
1937	「ロータリアン間の取引関係」を発表。	昭和9	
	12月6日弾圧により例会に日の丸・君が代導入。(京都RC)		
	ロータリーの綱領改正。		
	少年週間が青少年週間(youth week)となる。		
1938	シカゴ大学が「Rotary?」出版。	昭和9	
	岡山RC		
	門司RC		
	今治RC		

	「国事に関する方針の声明」発表。	旭川RC	
		函館RC(15)	
1935	現在の「ロータリーの目的(綱領)」ほぼ完成、前文と四カ条の本文という解釈。(目的の明確化)	帯広RC	昭和10
	ロータリーソング「奉仕の理想」「我等の生業」を第70区京都大会で発表。	岐阜RC	
	国家間訪問(ロータリー友情交換)プログラム設定。	金沢RC	
	ポール・ハリス著「This Rotarian Age(ロータリーの理想と友愛)」をRIが出版。	徳島RC	
	ポール・ハリス、日本(横浜・東京・京都・大阪・神戸)公式訪問。(帝国ホテル内庭に「友愛の樹」手植え)	静岡RC	
	アーサー・フレデリック・シェルドン逝去。(享年67歳)	四日市RC	
1936	ドイツでクラブ解散。	浜松RC	昭和11
	大連宣言採択。(神戸大会)	郡山RC	
	青少年週間が少年・少女週間(boy's and girl's week)となる。	長崎RC	
	「ニコニコ箱」の常設。(大阪RC7月、東京RC9月)	室蘭RC(25)	
	「国家有事中のロータリー活動」発表。	釧路RC	
1937	イタリア・オーストリアでクラブ解散。	仙台RC	昭和12
	札幌で地区大会が開催され、各クラブの定款細則を邦文で作成することが決議される。	和歌山RC	
		西宮RC	
		松山RC	
		高松RC	
		高知RC	
	野付牛RC		
1939	日本、第70、71、72区となる。		昭和14
	シニア会員制度設定及び実施。	盛岡RC	
	日満ロータリー連合会結成。(別府大会7月)	熊本RC	
	国際身体障害者協会設立。(エドガー・アレン)		
	ポール・ハリス、シカゴ功労賞受賞。		
1940	第1回日満ロータリー地区連合年次大会。(5月、横浜)	新潟RC	昭和15
	「青少年への奉仕の目標」発表。	宇和島RC	
	日本のRCがRI脱退宣言。(9月)		
1941	日本、太平洋戦争に突入。		昭和16
1942	チェスレー・ペリーRI事務総長退任。		昭和17
	シニア会員をシニア・アクティブ会員に変更。		
	「ロータリアンに対する事業上の援助と助言」発表。		
	“Service through Business”宣言文採択。		
	史上二番目の会員減少。(1940~1942)		
1943	RI理事会は、ハーバート・テラー(シカゴRC)が考案した「四つのテスト」を正式採用。後に版權寄贈。		昭和18
1944	ハイラム・ショーレー逝去。(3月享年81歳)		昭和19
1945	49人のロータリアンが国連憲章起草に参画。		昭和20
	第二次大戦終結。グアムRCがRI復帰。(戦後第1号)		
	名誉会員制度制定。		
	ロータリー財団の目標設定。		
	シルベスター・シール逝去。(12月17日 享年75歳)		
1946	米山梅吉逝去。(4月28日) 福島喜三次逝去。(9月17日)		昭和21
	ロータリー財団奨学生制度計画発表。		
	ポール・ハリス、病床の中で「My Road to Rotary」完成		
1947	ロータリー財団奨学生制度実施。「高等教育のためのフェローシップ」財団初のプログラムを開始。		昭和22
	第一回復協議会開催。(日本)		
	ポール・ハリス逝去。(1月27日 享年78歳)		
1948	RI職業奉仕委員会廃止。(1987年に復活)		昭和23
	職業奉仕解説書、パーシー・ホジソン著「Service is My Business(奉仕こそわがつとめ)」をRIが出版。		
1949	東京・大阪・京都・名古屋・神戸・福岡・札幌・広島RCがRI復帰。	一宮RC	昭和24
	ドイツがRI復帰。	小倉RC	
	パーシー・ホジソンRI会長がRIテーマの原型を初発表。		
	国際協議会がシカゴ中心からレーク・プラシッドに移る。		
	1都市1RC制を完全廃止。		
	ケンドリック・ガーンジーの「Enter to Learn, Go Forth to Serve」掲示開始。		
1950	デトロイト大会で「He profits...」と「Service above self」がモットーとして公式採用。	姫路RC	昭和25
	日本からの第1期ロータリー財団奨学生を送り出す。(清水長一が米国へ)	津RC	
	中国のRCが解散開始。	甲府RC	
	インドのRCが定款から“male”の字を削除することを提案。(否決)		
	ICGF(後のIM:都市連合会)を義務化。		
1951	RI理事会は道徳律の手続要覧への掲載中止を決定。(要請されれば、そのコピーは提供された。)	水戸RC	昭和26
	中華人民共和国RI離脱。		
	RI加盟認証番号を廃止。		
	ロータリーの綱領「Objects」を「Object」に変更。		
	Aims and Object委員会廃止。		
	日本最初のICGF(現IM)開催。		
	最初のロータリー財団奨学生来日。(東大)		
1952	東京RCで古沢文作会長が米山記念奨学金制度を提案。		昭和27
	「手に手つないで」発表。(第60地区大阪大会)		
	日本2地区に分割。(第60・61地区)		
	ロータリー解説書「Adventure in Service(奉仕の冒険)」をRIが出版。		
	東京ライオンズクラブ発足。(フィリピン・マニラライオンズクラブのスポンサー)		
	ロータリーの友創刊。		
	第61地区神戸大会で「手に手つないで」を歌い円陣を作ることが始まる。		

1953	「それこそロータリー」発表。 ホアキン・シビルスRI会長がRIテーマ発表を本格的に開始。 東京RCが米山奨学金制度設立		昭和28
1954	ハーバート・ティラーRI会長が四つのテストの著作権をRIに寄贈する。	岩見沢RC	昭和29
	ロータリー本部、新築の建物に移転。(エバンストン) RIテーマ公式日本語訳開始。 「四つのテスト」公募による邦訳決定。(東京RC 本田親男氏)		
1955	ロータリー創立50周年。 ロータリー財団の目標改正。		昭和30
	シニア・アクティブ会員制度一部改正。 日本4地区に分割		
1956	ロータリー財団週間制定	札幌南RC	昭和31
	第1期 ROTA(GSEの前身)実施。 規定審議会の最初の隔年会合開催。		
1957	ロータリー財団の認証プログラムである「ポール・ハリス・フェロー」の認証開始。 全国規模の米山記念奨学委員会設立。	苫小牧RC 函館東RC	昭和32
	日本5地区に分割	芦別RC	
1958	世界理解週間制定 財団奨学生の目的を国際理解に変更。 RYLAがオーストラリアで発足。	滝川RC 深川RC	昭和33
	1959	財団GSE採択。 「Seven Paths to Peace(平和への七つの道)」をRIが出版。	
1960	日本6地区に分割 日本7地区に分割		昭和34
	チェスレー・ペリー逝去。	小樽南RC 札幌西RC	
1961	RI第52回東京国際大会開催(参加国及び地域74以上、23,366人、アジア最初の大会)。天皇陛下来臨。 RIが「職業分類指針」発行。	室蘭東RC 留萌RC	昭和36
	百万ドルの食事始まる。(マサチューセッツ州) 日本8地区に分割	余市RC 浦河RC	
1962	最初のインターアクト・クラブがフロリダ州メルボルンに設立され世界各国に拡大。 世界社会奉仕プログラム(WCS)の導入。(国際奉仕活動の本格化)	江別RC 岩内RC	昭和37
		江差RC	
1963	「国際ロータリーの基本方針」「ロータリーの基本的特色」「国際青少年計画への指針」発表。 仙台に日本最初のインターアクト・クラブ仙台育英高校IAC設立。 RIは職業分類概要を発行するが、それ以降、標準職業分類表の発行を含めた一切の作業を中止する。 ポール・ハリス夫人ジーン逝去。		昭和38
	シニア・アクティブ会員、アディショナル会員制度一部改正。 RI文献日本語翻訳配布事務が東京文献事務所へ移行。 日本10地区に分割。	森RC 栗沢RC 函館北RC 倶知安RC	
1964	マッチド地区とクラブ・プログラム実施(1963年に計画)。 スリランカのRCが女性入会容認の制定案を提出。(否決) キワニスクラブ日本に渡来。		昭和39
	マッチング・グラント開始などロータリー財団プログラム改正。(各種補助金) 分区代理制開始。		
1965	グレートブリテンのロータリアンが、プロバスクラブを創設。 研究グループ交換(GSE)発足。 日本11地区に分割。		昭和40
	RI職業分類指針発刊(最終)。 最初のGSE来日。		
1966	WCS財政援助制限撤廃。(金銭的援助の緩和) 元シカゴ・クラブ会員であったオーレン・アーノルド(Oren Arnold)が「Golden Strand」出版。		昭和41
	財団法人米山記念奨学会設立。	妹背牛RC	
1967	地区出席競争制定。 日本13地区に分割。		昭和42
	東ヶ崎潔氏 RI会長に就任。(1968-69) 海外ロータリー・ボランティア制度発足。 世界親睦活動発足。 居住地会員制度設定。	長万部RC 蘭越RC 千歳RC 様似RC	
1968	職業分類表作成を各RCに委任。 RIとRIBI関係正常化。 ローターアクト計画発表(川越に日本最初のローターアクト・クラブ設立)。 「意義ある業績賞」設定。 アーチ・クラウン賞設定。 日本14地区に分割。		昭和43
	青少年活動週間設定。	洞爺湖RC	
1969	地区幹事・地区会計制度設定 IGF開催をガバナーの裁量に委任。	松前RC 登別RC	昭和44
	規定審議회를3年毎のRIの立法機関として決定。(組織の立法化) シニア・アクティブ会員制度一部改正。 「ロータリー資料室(現ロータリー文庫)」設立。	砂川RC 栗山RC	
1970	日本ロータリー50周年。 「職業分類対訳表」発行。	苫小牧北RC 恵庭RC 七飯RC	昭和45
	日本17地区に分割。	札幌手稲RC	

		三石RC	
		函館五稜郭RC	
1971	公害防止の指針発表。	札幌北RC	昭和46
	ロータリー財団に心身障害者教師の奨学金を設定	静内RC	
	ロータリー青少年指導者養成プログラム(RYLA)設立。	室蘭北RC	
	世界社会奉仕推進強調。		
	「ロータリー日本 50年史」出版。		
	ロータリー重要文献日本語訳改定実施。		
	日本18地区に分割。		
1972	RIの立法機関としての規定審議会が初開催(ヒューストン大会)	函館亀田RC	昭和47
	米国のRCが女性会員入会を提案。(否決)	えりもRC	
	「環境の改善」発表。		
	第1回ロータリー研究会。		
1973	日本20地区に分割	美唄RC	昭和48
1974	環境保全と資源問題の委員会設置。	札幌真駒内RC	昭和49
	青少年交換プログラム始まる。	小平RC	
	中断の「意義ある業績賞」復活。		
	規定審議会の3年毎開催確定。		
1975	ロータリーの友英語版創刊。	小樽銭函RC	昭和50
	「国法の遵守」発表。		
	RI第366地区(大阪・和歌山)でRYLAを日本で初開催。		
1976	マッチド・クラブ制度復活。	当別RC	昭和51
	ロータリーの目的(定義)発表。		
	ジャーナリストのためのロータリー財団奨学金制定。		
1977	規定審議会は、全世界にわたり道徳の高揚、復興をはかるべしとし、第68回サンフランシスコ国際大会でRI理事会は道徳律の刊行と頒布の再開に努めるべきことを決議した。(77-117)	札幌西北RC	昭和52
	規定審議会の決議に応え、(1977-78)理事会は刊行・頒布の再開するに先立ち、これを現今の時に合うよう改訂できるか否かを検討することとした。(しかし実施はされなかった。)		
	規定審議会をRI大会から独立の立法機関として開催。		
	日本22地区に分割。		
1978	RI理事会は、道徳律を現今に合うように改めることはすべて無駄であり、今後一切ロータリアン及びRCに配布しないことを決議した。	昭和53	
	RI第69回東京国際大会開催。(参加国及び地域 95以上、39,834人)		
	保健・飢餓追放・人間尊重(3-H)プログラム発表。(RI主導型奉仕活動)		
	米国カリフォルニア州デュアルテRCが女性入会を認めたためRIが除名、その後裁判となる。		
	ロータリーの目的(定義)を手続要覧に掲載。		
	日本23地区に分割。		
1979	職業奉仕週間新設。	羽幌RC	昭和54
	ロータリー財団がポリオ撲滅のための補助金をフィリピンに支給。ポリオ撲滅活動の始まりとなる。	白老RC	
1980	規定審議会(シカゴ)で道徳律の廃止を決定。RI細則より道徳律の文字完全削除。	北広島RC	昭和55
	ロータリー創立75周年に合わせポリオ予防接種のための3-Hプログラム推進。		
	ロータリー国際平和賞を制定。		
	ロータリーの友公式地域誌に認定。		
	日本24地区に分割。		
1981	RI日本支局開設(現日本事務局)。		昭和56
	恒久基金設定。		
1982	向笠広次氏RI会長に就任。(1982-83)	昭和57	
	毎週例会を全RCが導入。		
	ダラス大会で初めて“Women in Action for Rotary”セッション開催。		
	「日本ロータリー60年史」出版。		
	日本26地区に分割。		
1983	ロータリーの特別月間開始。	岩見沢東RC	昭和58
1984	手続要覧から「決議23-34」が削除される。	新札幌RC	昭和59
	「ロータリーの目的」を「ロータリーの定義」と改正。		
	「ロータリーの基本的特色」発表。		
	最初のカラー・ジャケット(黄色)をカルロス・カンセコRI会長が使用。		
	ロータリー創立80周年。		
1985	「ポリオ・プラス計画」を発表。(翌年より実施)		昭和60
	日本27地区に分割		
1986	日本や韓国のロータリアンの抗議を受け、手続要覧に「決議23-34」が復活。	昭和61	
	ローズ・パレード(パサデナ)でポリオ・プラス計画をテレビ公表。		
	RCC(ロータリー地域共同体)採択。		
	ロータリアンが100万人を突破、日本では10万人を超える。		
1987	RI職業奉仕委員会40年ぶりに復活。	昭和62	
	職業奉仕に関する声明発表。(職業奉仕はクラブと会員両方の責務である)		
	初めての平和フォーラム世界各地で開催。		
	日本28地区に分割		
1988	広島で1987年度第4回ロータリー平和会議(フォーラム)開催。	札幌モニングRC	昭和63
	ロータリー友情交換採択。		
	「他団体への協力」発表。		
	GPEI(世界ポリオ撲滅推進活動)発足。		
	ポリオ・プラス募金2億4,700万ドル達成。		
	ロータリー理解推進月間・会員増強拡大月間新設。		
He profits most who serves bestの格下げ。(第二モットーとなる)			

1989	規定審議会は「道徳律」に代わるものとして「職業宣言」を発表。	平成元年	
	女性ロータリアンを認める。(シンガポール規定審議会)		
	日本最初の女性会員松田郁子氏。(第2500地区 清水RC)		
	ソ連における史上初の奉仕クラブとしてモスクワ・ロータリー・クラブが発足。		
	綱領の和訳文変更。 「ロータリーの定義」文言改正。 日本30地区に分割		
1990	ソビエト連邦政府とRIがモスクワに仮ロータリークラブ結成を合意する。(3/24)	千歳セントラルRC	
	「子供の権利」発表。	平成2	
	「われらの天体、地球の保全プログラム」発表。 ロータリー財団寄付シェア・システムに改正。 IGFをIMIに呼称変更。(日本 ICGF→IGF→IM)		
1991	日本31地区に分割	札幌あけぼのRC	
	ソビエト連邦が崩壊し、ロシア共和国内にウクライナなど多くのロータリークラブが急速に設立された。	長沼RC	
	日本ポリオ・プラス・キャンペーン終了。(募金総額49億円)。その後、財団ベースで継続。 ロータリー財団シェアシステム採用。 「国際ロータリーの使命」発表。(団体奉仕活動の提唱)	平成3	
1992	「綱領に基づく諸活動に関するロータリーの指針」に替えて「社会奉仕に関する声明」を付記することを条件に 「決議23-34」が永久保存されることが決定される。	江別西RC 苫小牧東RC	
	ロータリー財団プログラム改正。	札幌はまなすRC	
	日本33地区に分割	由仁RC	
	環境保全(決議 92-287)を発表。 アディショナル正会員制度一部改正。 規定審議会へのクラブからの提案は地区大会決議が必須とした。	平成4	
1993	世界社会奉仕の目標発表。ロータリー財団ジャパン・プログラム開始	平成5	
1994	アメリカ大陸ポリオ・フリー宣言。 日本34地区に分割。	平成6	
1995	メイクアップ期間の延長。 ゾーン制度改正。	平成7	
	「ロータリーの定義」改正。 女性最初のガバナー8人誕生。 パスト・サービス会員資格改正		
	新世代会議開催。		
1996	ロータリーの綱領下文にRI見解付加。 女性のニーズに応えるロータリー活動声明を採択。	上磯RC(北斗) 平成8	
1997	RI理事会が「職業奉仕月間」を定めこれを奨励。 ニューリーダーシップ・プランの採用。	札幌清田RC 平成9	
1998	出席規定適用免除改正。 奉仕活動の実践がクラブ例会のメイクアップとして認められるようになった。 IMが手続要覧から抹消。	平成10	
	「青少年」から「新世代」のためのプログラムへ変更。		
1999	ロータリーセンターの設置決定(日本では2002年、国際基督教大学に設立)。	平成11	
2000	日本35地区に分割。 西太平洋地域ポリオ撲滅宣言。 ロータリーのIT革命。	平成12	
2001	6月RI理事会はHe profits...の使用を性差別を理由に停止を決定。 11月RI理事会は日本のロータリアンの強い要望でHe profits...の使用停止を撤回。 一業一会員制廃止。	札幌大通公園RC 平成13	
	正会員と名誉会員に統合。シニア・アクティブ、パストサービス、アディショナル会員廃止。 クラブの区域限界(territory)の呼称が所在地域(locality)に変更。 メイクアップ規定の改正 サイバークラブ認可		
	日本34地区に再編成。 ヨーロッパ大陸ポリオ・フリー宣言。 DLPが義務的実施となる。(ロータリー第2世紀への体制強化)		
	菅生RI理事は1月、アナハイムにおける国際協議会において、「今日における職業奉仕の重要性」を強調。 「ロータリー家族」をRI 会長強調事項としたことにより、家族月間設定。		
2004	“He Profits Most...”を“ They Profit Most...”に改正。 RI第95回大阪国際大会。(参加国及び地域 112 以上、45,595 人) グレン・エステスRI会長エレクトが「世界最大のNGOであるロータリー」と発言。	札幌セントラルRC 平成15	
2005	ロータリー創立100周年。 日本で財団学友によるRC誕生。(神奈川) 2007年に大阪でも誕生。 クラブ・リーダーシップ・プランの採用	函館セントラルRC 平成17	
2006	「国際ロータリーの使命」改訂。 財団の「未来の夢計画」始動(財団の新方針)。	平成18	
2007	RI定款第5条の正会員入会資格条件が改定され、職業人以外に地域社会のリーダーの入会が認められる。 推奨ロータリークラブ細則にCLPが導入され、職業奉仕が奉仕プロジェクトの一部門に埋没。 四大奉仕部門をロータリークラブ定款に明記。 ポリオ撲滅がロータリーの最優先目標であることを確認。 ポリオ撲滅へビル・ゲイツ財団から1億ドルの寄付。 日本人初の女性ガバナー(2007~2008)、RID2630 田中稔子(としこ)氏就任。 会員資格の変更。(財団学友・ボランティアリーダーの入会を承認) 出席義務の緩和	平成19	
	「ロータリー章典」から「決議23-34」ドキュメントが消滅。(手続要覧には記載)		
	2008		平成20

2009	RI第100回バーミングム国際大会。(参加国及び地域157以上、16,062人) 公式名簿巻末の“ideal of Service”説明文を削除し改変。 RI職業奉仕委員会再復活。	平成21
2010	新世代奉仕が加わり五大奉仕となる。 決議23-34のロータリー章典、手続要覧両方への掲載が理事会にて決定(ロータリー理念の再確認)。 「国際ロータリーのビジョン」中核となる価値観」発表。 “They Profit Most…”を“One Profits Most…”に変更。	平成22
2011	「RI職業奉仕委員会」を「RI職業奉仕推進委員会」と改称。 「ロータリアンの職業宣言」が改編され「ロータリーの行動規範」と改名。 RI長期計画はRIの「ビジョン」を「本質」と改正。10月には「長期計画」を「戦略計画」と改称。 ジョン・ヒューコ氏がRI事務総長就任。	平成23
2012	田中作次氏RI会長に就任。(2012-13) インドをポリオ常在国から除外。 ポリオ撲滅ロータリー2億ドルチャレンジグラント達成。さらに募金活動推進。	平成24
2013	RI規定審議会にフランスから提出された「制案13-43 仕事をすることがない人または仕事を中断している人を正会員として認める件」が決議され、「家事のため仕事を中断、または仕事をしていない人を正会員として認める」としてRI定款第5条の正会員入会資格条件に追記される。 「ロータリーの綱領」が「ロータリーの目的」と変更され内容の訳文も改正される。 ロータリー財団新補助金プログラム「未来の夢計画」実施。 Eクラブ数制限撤廃。 新世代奉仕を青少年奉仕と改称。	平成25
2014	手続要覧2013年版で、「四つのテスト」がロータリーの奉仕の基本理念に格上げされる。 国際協議会に掲げられていた“Enter to learn…”が廃止され、“Join leaders, Exchange ideas, Take action”が掲示。 「ロータリーの行動規範」の和訳が「ロータリアンの行動規範」となり、8項目から4項目となる。 雑誌購読義務が電子版でも承認(2010年11月RI理事会)されたことに対応して「ロータリーの友」電子版1月号発刊。 東南アジア地域ポリオ・フリー宣言。 特別月間を六つの重点分野をベースとして大幅変更決定。(2015年7月実施)	平成26
2015	ロータリー・グローバル・リワード(会員特典プログラム)開始。 「ロータリアンの職業宣言」の基本変更。	平成27
2016	規定審議会で「柔軟性」という例外規定の導入にてロータリー史に残る重要な決定がなされる。 例会と出席に関する例外規定。(16-21) 会員身分に柔軟性を認める例外規定。(16-36、38) 決議審議会が毎年開催され決議案のみオンライン採決となる。(16-113) Eクラブが事実上従来型クラブと同一となり文言削除。(16-30、82) RI人頭分担当が「5カ年財務見直し」説明ののち毎年4ドルの大幅値上げが採択される(16-99)。 「日本のロータリー100周年実行委員会」設置。	平成28
2017	RI会長エレクトのサム・オオリ氏(ウガンダ)が急逝(7/13)。<不測の事態発生> 地区指導者育成セミナーがRIの研修サイクルから削除決定。(9月) アトランタ大会で日本政府が5,500万ドル(約60億円)ポリオ撲滅のため寄付を誓約。 ロータリー財団100周年記念アトランタ大会が盛大に開催。(6/10~6/14 約33,900人) 最初の決議審議会が10月15日~11月15日にオンライン投票で開催された。	平成29
2018	地区リーダーシップ・プランが10月理事会で大幅に修正された。(体制強化推進) 初めての決議審議会で電子投票によって採択された議案を1月のRI理事会から順次検討し、採決された。 中華人民共和国で増えつつあるロータリーを海外NGOとして登録する手続きを行うことに同意した。(RI10月理)	平成30
2019	「ロータリアンの行動規範」が1項目付加され、5項目となった。(RI1月理事会) メイクアップ期間を同年度内とする。(19-35) 職業分類の制限廃止(職業分類は残される)。(19-39) 事務総長が「最高経営責任者(GEO)」の肩書を使用する事を採択。(19-62) RI人頭分担当が2020~2021年度から3年間毎年1ドル増額を採択。(19-82) 公職、RI職員規定を削除(19-37)。 RIが米国内国歳入法に基づき免税資格のある団体に変更することを採択。(19-117) ローターアクトクラブがRIに加盟する事を採択。(19-72)	令和01
2020	新型コロナウイルスの影響で国際大会が中止となる。	令和02

赤字:職業奉仕関連
青字:ポールハリス関連